

平成 24 年度 課題研究成果報告書

平成 27 年 3 月 26 日現在

研究種目：研究 I

研究期間：平成 24 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（ 3 年間）

研究課題名：精神障害者に対する地域生活支援プログラムの開発
—社会生活と化粧を関連づけたアプローチ—

研究代表者

氏名：石橋 仁美

所属：東京工科大学 医療保健学部 作業療法学科

会員番号：12974

研究成果の概要：

本研究の目的は、精神障害者に対する地域生活支援プログラムを開発と効果検証のために、①精神障害者の化粧の特徴に関するアンケート調査、②プログラムおよび教材の開発と予備的試行、③作業療法士対象の講習会開催、④研究者以外の作業療法士による効果検証の実施を行った。その結果、作業療法士であれば使用可能な教材を開発することに成功し、高齢者への予備的試行では QOL 向上の成果もあげた。現在、我々以外の作業療法士にプログラム実施を依頼し、実施中である。

助成金額（円）：1,200,000 円

キーワード：精神障害者、地域活動支援プログラム、化粧

1. 研究の背景

厚生労働省が平成 16 年に精神障害者退院促進事業を開始し、精神障害者の社会生活の維持に焦点を当てた地域生活支援が不可欠となった。精神障害者が地域で継続して生活するためには、基本的なこと（食事の支度、洗濯など）だけでなく、仕事に就くなど何らかの役割に関わることが必要となる。しかし、地域で生活する精神障害者の中には、仕事や社会生活におけるストレスから入退院を繰り返す事例も少なくない。精神障害者が地域で安定した生活を送るためにも、対象者の社会生活（作業）の問題に焦点をあてたプログラム開発が求められている。

ところで、化粧は意欲向上や楽しみの獲得を目的とした集団に対して用いられることがある。化粧療法の定義は様々あるが、阿部は「化粧を用いた治療法であり、化粧が心理学的な過程を介して心理-生理的な治療効果をもたらすことを期待して行われるもの」と定義し¹⁾、日本化粧療法協会は「ハンドケア、フェイシャルケア、メイクアップなどのスキンケアを通してリラックスしながら若さ

や美しさを取り戻し、自信や満足感、自己肯定感などを手にすることを目的とした生理的・心理的ケア」と定義している²⁾。つまり、化粧療法は心身機能への効果を期待した支援に位置づけられる。

一方、我々は精神障害者退院促進事業の一環として、精神科に入院中の女性患者に社会復帰プログラム「メイクアップクラブ」を行っていた。このプログラムは、各参加者の社会生活を振り返りつつ「化粧」がもつ作業の「機能・形態・意味」を学び、さらに実際に化粧を施して話し合いで決めた活動を経験するものである。先行研究³⁾では、プログラム後の効果として、退院に向けた意欲の向上などの心理的变化や実際の生活に作業遂行の肯定的変化が認められた。以上の背景より、本研究では、入院患者で効果が認められた「メイクアップクラブ」を地域に在住する精神障害者を対象とした「地域生活支援プログラム」として新たに開発する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神障害者に対する地域生活支援プログラムを開発し、プログラムの効果を検証することである。上記目的を検証するために本研究では、①精神障害者の化粧の特徴を把握するためのアンケート調査、②アンケート調査や予備的試行を基にしたプログラムおよび教材の開発および修正、③作業療法士対象の講習会開催、④研究者以外の作業療法士による効果検証を行った。

3. 研究の方法

1) 社会生活支援プログラムの開発と修正

プログラム開発のために、精神科作業療法士を対象に「化粧を用いた作業療法、作業療法対象者の化粧状況」に関する郵送調査をおこなった⁴⁾。対象は関東(東京・神奈川・千葉・埼玉)の256施設に質問紙を郵送し、化粧支援の必要性、実施状況、問題点、化粧による効果をたずねた。その結果をもとに、代表研究者と化粧の専門知識を持つ株式会社カネボウ化粧品品の研究員でプログラムの教材と実施マニュアルを開発した。また、分担研究員により、地域在住高齢者を対象に開発したプログラムを予備的に試行し、プログラム内容および成果指標の検討をおこなった⁵⁾。

2) 開発した社会参加支援プログラムの概要

開発したプログラムの対象者は、作業療法の対象となる全てのクライアントを想定した。グループで行うことで生まれる相互作用を重要としているが、クライアントによっては個別支援への応用も可能である。

プログラムは全8回から成り、1回のプログラムの時間は90分以上120分以内である。各回に異なるテーマが設けられており、毎回テーマに沿った「学習会」と「化粧の実践」がセットで行われる。学習会では、「きれいになりたい」という参加者のモチベーションを活かして自分自身の日常生活を振り返る。ここでは参加者間でも話し合う機会を設けており、他の参加者からの意見を自分の生活に取り入れることもできる。化粧の実践では、ファンデーション、口紅、チークなどの細部の化粧方法だけでなく、TPOにあわせた化粧方法を学んでもらう。さらに、理解しやすく、自宅(病棟)でも振り返って自分で化粧ができるような教材を準備したり、プログラム中に使用する化粧品と化粧道具を全て市販のものにしたりすることで、化粧の習慣化を促進している。最終的には、参加者が「化粧をしてやってみたいこと(作業)」に、学んだ化粧を活かして全員で挑戦する。なお、講義中の資料および提示する順番はすべて実施マニュアルに事細かく指定しており、実施者による質の相違の軽減を図っている。

3) 開発したプログラムの効果検証

開発したプログラムの効果検証には、二重

盲検化による非ランダム化比較研究のデザインを採用した。具体的には、実験協力施設を募集し、応募のあった施設に説明と同意書を交わし、施設の希望により対照群と実験群に分類した。研究者は実験群と対照群の参加者の実施前後の評価のみ関わり、実験群と対照群の実施は、協力施設の作業療法士が行った。なお、実験群の作業療法士には、予め16時間のプログラム講習会に参加してもらい、教材と実施マニュアルを確認しながら、講義方法と実際の化粧方法を伝達した。

4. 研究成果

1) 社会生活支援プログラムの開発と修正

アンケートは131施設から回答があった(回答率51.2%)⁴⁾。作業療法経験年数は10.5±6.4年で、最も多かった担当疾患は統合失調症であった。精神障害者の化粧の問題を116施設で感じており、具体的な問題は「不自然な化粧(95)」と「不十分なスキンケア(98)」であった。具体的な不自然な化粧として、不自然な化粧の内訳は、「口紅が濃い(75)」「口紅がはみ出している(60)」「年齢と相容れない化粧(61)」「ファンデーションが白すぎる(50)」があげられた。アンケート調査により、精神障害者は化粧に問題があり、特に、ファンデーション、口紅、チークなどで不自然になる傾向があり、それらは精神状態やクライアントにとって特別な作業への参加と関連していると作業療法士は認識していた。アンケート調査により、作業療法士が精神状態や特別な作業参加への介入を行う時、同時に化粧についても支援する必要があることが明らかとなった。

予備的試行では、大田区在住の一次予防事業対象者13名に開発したプログラムを実施した⁵⁾。成果指標にはSF-8、WHOQOL26、そして作業に関する自己評価改訂第2版(OSA-II)を使用し、一群前後比較のためにWilcoxonの符号付順位検定を行った。その結果、介入前後でOSA-IIの習慣化の項目で有意に得点が向上し(p=0.032)、WHOQOL26の社会的関係で得点向上の有意な傾向(p=0.073)が認められた。予備的研究により、開発したプログラムには社会的関係の改善や、習慣の再組織化を促進する効果が期待されることが示唆された。

本来の予定では、平成27年3月末にデータ収集と分析まで完了予定だったが、平成26年5月に化粧技術の協力を受けた株式会社カネボウ化粧品の白班問題が明らかになったことで、精神科の病院や患者からの本研究の協力を得ることができなかった。その後、カネボウ化粧品が花王株式会社に合併併合されたことで、協力施設を延べ3施設から得る事ができた。平成27年3月現在、地域在住精神障害者に対して、延べ3施設(対照群1

施設、実験群 2 施設)で行っている。実験群の実施にあたり、平成 26 年 10 月 17 日と 31 日の 2 日間にわたり講習会を実施し、研究協力者にプログラムを伝達した。現在、12 名の精神障害患者がプログラムを受講中しており、課題研究の成果を報告するために、協力施設を募集している。

5. 文献

- 1)阿部恒之：ストレスと化粧の社会生理心理学. フレグランスジャーナル社, 東京, 2002, pp53.
- 2)日本化粧療法協会：化粧療法とは. (オンライン), 入手先<<http://m-therapy.jp/>>, (参照 2015 - 03 - 26)
- 3)石橋仁美, 石橋裕：精神科病院長期入院患者における『化粧』と『社会復帰』との関連性－統合失調症患者の事例を通して. 日本顔学会誌 10 : 139, 2010.
- 4) Hitomi Ishibashi, Yoshikazu Ishii, Yu Ishibashi, Yumi Takada, Mika Shimoda : Cosmetic issues with women with mental disorder. - By inquiries for occupational therapists-. World Psychiatric Association Congress ,Vienna, Aurtria, 2013.
- 5)Yu Ishibashi,Hitomi Ishibashi, Yoshikazu Ishii, Yumi Takada, Mika Shimoda:The effectiveness of an occupational therapy program for health promotion using cosmetics among dwelling elderlies:A pilot study. World Psychiatric Association Congress , Vienna, Aurtria, 2013.

6. 論文掲載情報

[原著論文]

なし. 今後投稿予定.

[総説]

石橋仁美, 石井良和, 石橋裕：作業療法における化粧への支援－クライアントにとっての化粧を考える. 作業療法ジャーナル, 11 : 1207-1213, 2014.

7. 研究組織

(1)研究代表者

氏名：石橋仁美

所属：東京工科大学

会員番号：12974

(2)共同研究者

氏名：石橋 裕

所属：首都大学東京

会員番号：19904

(2)共同研究者

氏名：羽田舞子

所属：筑波大学附属病院

会員番号：20448